

学力向上に向けた学年内の意見交換

- 学年主任の必要性
 - 学年主任の役割（どこまで担当するのか）
- 情報交換会の必要性
 - 再履修学生への情報交換システムの構築について
 - どういったことを共有するべきか
- 学年内での学生交流会
 - 学級委員は必要？、新入生歓迎会の復活など

1 年生担当教員班

矢上（生物）、柳澤（実務）、山本（薬治）
山中（化学）、田畑（生物）、海堀（衛生）

＜学年主任の必要性＞

学年主任の役割（どこまで担当するのか）

学年主任は必要

＜役割＞

- * 担任で対応できない部分（担任の統括や面談などを行う）
- * 学年全体の学習、出席状況等生活指導の統括
 - ・ 基礎科目（生物、物理、化学）を学習させる上で、単独ではできない部分を統括する→教育センターに移行可能？
 - ・ 学年全体の出席状況などの確認と生活指導
 - ・ 学年の担当教員への連絡

（入学前）

- * 入学予定者に、入学前までにノートのとおり方など基本的な学習習慣を身につけさせる（１年生の学年主任は、入学前からも対応）
- * 入学予定者の勉強会
- * 将来的に教育センターを設立する

＜実現の可能性について＞

- * 各学年１人（１～４年）
- * 将来的に教育センターなどで、教育専門の人材を雇う
- * 個人の担任からは外す？

<情報交換会の必要性>

再履修学生への情報交換システムの構築について
どういったことを共有すべきか

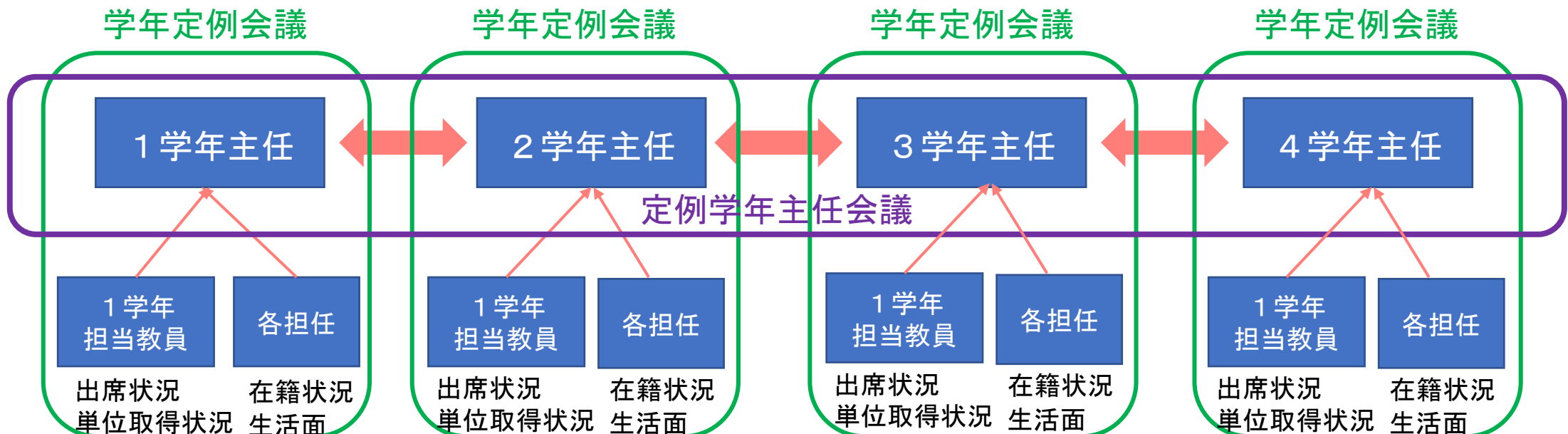
<各学年で情報交換>

配慮すべき学生（再履修学生など）について、在籍状況、履修状況、生活状況等の情報を交換

各担任は、配慮すべき学生に関して、学年主任に報告

学年主任が情報を各学年の教員に伝達、共有（**定例学年会議**？）

学年主任同士の情報交換を行う必要もある（**定例学年主任会議**？）



学年定例会議への担任の参加は必要に応じて

＜学年内での学生交流会＞
学級委員は必要？、新入生歓迎会の復活など

学級委員は各学年 1 人？

＜学習面での交流＞

- * 学生が孤立させないようにするには交流は必要
 - * グループで勉強会（学生間で教え合う）を行うのは効果的
 - * 学年主任と学級委員で連携
 - * 学年内だけに限らず、学年間の交流も行う
- 将来的には、教育センター？

＜生活面での交流＞

- * 学生が孤立させないようにするには交流は必要
- * 新入生歓迎会の復活
- * クリスマス会の復活

2022年度 8月31日(水) 薬学部FD活動 「学力向上に向けた学年内の意見交換」 2年グループ

○ メンバーおよび2年生担当科目

阿部肇:有機化学Ⅱ, 物理化学系PBL, 薬学基礎演習

岡村恵美子:物理化学Ⅰ, 物理化学系PBL, 薬学基礎演習

角山圭一:疾患薬理学Ⅰ

川井真好:微生物学, 衛生薬学Ⅱ

兒島憲二:分析化学Ⅰ, 物理化学系PBL

山本泰弘:生理学実習

酒井伸也:生物統計学

(ファシリテーター・発表:阿部 記録:川井)

○ 学年主任の必要性、学年主任の役割・機能 (何をどこまで担当するのか)

・学年主任の業務

- ⇒ 必要性はあるが、担任制度との切り分けが難しい。複雑になってしまうのでは？
- ⇒ 合格・不合格が確定した科目について、学年主任で情報をとりまとめる。
- ⇒ 1単位科目の合否は2単位科目よりも早めに確定するため、情報を2単位科目の指導へ活用できる。

・学生のケア、学力

- ⇒ 学生のケアの体制・窓口は 個人担任と学年主任の複数で担当するのがよい。
- ⇒ 学力の向上のために、Eラーニングも活用して欲しい。1年生の時点でIDが配布されている。
- ⇒ 数学系； できる学生、できない学生の差が大きい。このため、講義のレベルのフォーカスが絞りにくい。
- ⇒ 留年生へは別の対応が必要。

○ 情報交換会の必要性

・再履修学生への情報交換システムの構築について どういったことを共有すべきか

- ⇒学生の履修状況・出欠・合否・進級の可否などの情報を共有したい。
- ⇒成績を把握するためにも、情報交換会があったほうが良い。
- ⇒情報共有の上で、チームとしての対応が望ましい(留年しそうな学生)。
- ⇒自分が担任する学生について、学習の状況が必ずしも把握できていないため、情報が欲しい。

・取りまとめた情報を踏まえて

- ⇒前期で留年が決まった学生のモチベーションが低くなるため、ケアが必要。PBLのような演習科目で参加意識が低下しがち。同じグループに固めないなどの対応が必要。
- ⇒学年主任が教務ガイダンスに参加し、新学年で履修する科目の学習について学生へのアドバイスや注意を述べるなど、情報を踏まえたサポートを行う。

○ 学年内での学生交流会

- ・学級委員(学生の中の代表)は必要？
新入生歓迎会の復活など

⇒初期は新入生歓迎会およびクリスマス会が開かれ、教員および学生も比較的多くの方が来られていた。(新入生の減少により)参加者が全体として減少してきていた傾向？

⇒新型コロナの蔓延のために中断されている時期があり、実施方法・手続きなどのノウハウが学生さんに伝わっていない。

⇒新入生歓迎会およびクリスマス会を再開する方向で検討したい。それに関係して学級委員をおく。

○ そのほかの意見

・2年生の特性、2年生科目の特性

⇒入学から1年が過ぎて、ほっとして油断する時期。カリキュラムに空き時間が多く、学生によってはさぼりがち。

⇒薬学基礎演習は講義科目としての要素が大きいいため、演習科目としてよりも、講義科目とできないか？（単独の科目で留年が決まる）

・留学生、編入生

⇒留学生、編入生のケアも別途考えたい。

3 年グループ

参加者 (五十音順) : 7 名

**齋藤 一樹, 関 貴弘, 寺岡 麗子, 長久保 大輔,
中村 隆典, 寺田 一樹, 中山 優子**

ファシリテーター : 長久保 大輔

書記 : 寺田 一樹

議題：学年主任の必要性，学年主任の役割

- 昨年度の卒業生は，元々はそれほど成績の悪い学生ではなかった。
 - しかし，コロナの影響もあり緊張感を失ってしまった。
 - 学生個々へのケアや対応が重要。
 - 主任を作れば良いというものではない。学生ごとに対応することが必要
 - どこからどこまで面倒見るのか，といった問題がある。
 - 何をするのかを計画するために主任を設置するのが良いのではないか。
 - 学年主任とするだけでなく，研究室・科目の分野や，実習分野などの教員で小グループを作りコアとなる教員を設置し，管理していく方が効果的ではないか。
- 学年担当（複数名）とする提案：担当者の過度な負担の軽減も意図

- 学生の緊張感を保つために
 - 他大学では，学年ごとの横向きでの管理をしているところもある。
本学の現状は縦割りでの担任。
 - 改訂コアカリに対応するグループも必要。
 - リモートに慣れてきたことで，講義動画や資料などを当然得られるような風潮が学生にできてしまった。
 - 学年ごとで科目を担当している教員が情報を共有することでこのような学生の傾向を早期に掴み、臨機応変にそれらに対応していくことが必要であろう。

- 現在の担任の役割と学年主任について
 - 担任がどこまで関わるか、役割を見直すことも必要。
 - プライベートな内容などもあるため、担任制という形は継続する必要がある。
 - 縦割りの担任も一人を追いかけるという意味では必要性がある。
 - 学年全体を把握していくという役割は必要。➡ 学年担当が対応にあたる
- 現在の担任の役割と学年主任について(つづき)
 - 学生さんが相談したい時に誰に聞けばいいのか、ケースによって異なる。
 - 学年主任の役割を増やすことで、誰に何を聞けばいいか混乱を招かないか。
 - 担任と学年担当の「役割」を明確にしなければどちらも機能しなくなる。
 - 常に同じ学年を担当し、固定していく or 持ち上がっていく？
 - 担任が縦割りのため、その学年・科目に適した指導ができるため、固定して担当していく方が良いのではないか。
 - 担当している科目の学年でグループを作成してみても良いかも。

提案➡学年担当は固定学年を持ち回りで受け持ち、主に学習面の学生対応を担う。
 (生活全般などプライベートを含む事項などは担任が主に対応)
 また、相談窓口の優先順位などを設定して学生の混乱を起こさないような工夫が求められる。

学年主任（学年担当）の運用における想定される課題

必要性は十分に感じられるが、既存の担任制や学年担当の役割・グループの作り方によって効果が左右される。

➡薬学部FD委員会や薬学部教授会において、具体的な運用方法を想定して予め議論する場を設ける必要性がある。

議題：情報交換会の必要性

- 学年対応を中心として教育推進委員会やFD委員会などの委員会との連携が必要
 - 学年での問題点を解決するための行き先を明確にすることが必要
 - 学生個々の問題点に関してはどうするか。
 - 学年に関しては、もっと大きな概念を議論する部門にする方がよい。
 - ➔ 複数学年間での連絡会などに必要に応じて拡大
 - 各所で連携することでこれまで気づけていなかった問題点が見つかる可能性がある。
 - ➔ 教育内容の重複のすり合わせや、欠落のあった教育項目の洗い出しに有効
 - 成績下位者への面談や特別教育などの措置を計画するなど、学年ごとのフォローアップを担当するなど。
 - ➔ 教育面での相乗効果を期待
- 再履修生への効果的な対応
 - これまでに行ってきた様々な対応はあるが、確実に効果を発揮しているものがない。
 - まずは、大学に来させることが重要
 - 道筋をこちらでわかりやすく提供することが必要
 - 提案 ➔ 年度が始まる前に学年のカリキュラムやスケジュールの構成を学生がイメージできるようにする試み

議題：学年内での学生交流会

- 孤立する学生さんに対して

- ただ教員が歓迎会を～といってもなかなか効果は出ない。
- 過去にも歓迎会は行っていたが、参加した学生はいい思い出となっているケースもある。

出ていない学生やうまくいかなかった学生の方にこそケアが必要？

- 本学は、グループを作ることが苦手な学生が多い印象がある。

- 教員側がある程度先導して計画をすることが必要。

- グループを作成するには**新入生のイベント**が必要。

ワールドカフェなど（お互いが知らない状態で開催する方がより効果的）。

新入生歓迎会やクリスマスパーティの復活は望ましい（できれば学年の早い時期）。

- ➡ 恐らく、学生の自主性を期待した会の設定では、裏切られることが想定される。重要なことは教員側でネタの設定と仕込み、意欲的な上級生を巻き込むなど、学生が盛り上がりを示すきっかけとなりそうなトリガーの設定を準備して誘導する工夫は必要／必須になると想定される。

2022年度 8月31日(水)
姫路獨協大学・薬学部 FD活動

学力向上に向けた学年内の意見交換

4年生担当 メンバー

柴田、蓮元、増田、若林、加藤、村重、通山

課題 1 学年主任の必要性

学年主任の役割(どこまで担当するのか)

- 学年の教科担当者間の情報共有の要として必要では。
具体的には、各学年(1-4☆年生)の科目担当者から、2名ぐらいを選出し、各学年の問題に対して、教務委員の補助的な役割を果たす。(定期試験の成績分布の取りまとめなども実施)
- 担当者は2年ぐらいでローテーションする。
4年生については、CBT留年の学生対応の取りまとめも担う。

☆研究室配属を早期(3年生)に変更すれば、4年生については学年担当は不要で研究室担任が担当することも可能となるが、学生の配属方法については熟慮が必要

課題 2 情報交換会の必要性 再履修学生への情報交換システムなど

学年主任（担任）のシステムを活用して、以下の会議で情報を交換する。

- 教務委員と各学年の担任を構成員とする定例会議
- 学年担任を中心に、各学年の教科担当者間での非定例の会議

課題 3 学年内での学生交流会 について

学生同士の情報交換や学生間の縦横のつながりを強めるために、歓迎会やクリスマス会を復活する。

教員も積極的に参加して学生と交流する。

- 新入生歓迎会 （5月の連休前）
- クリスマス会 （CBT本試験後発表前など） など

その他 学力向上に向けての意見交換

単位未修得科目を持ち越さないために、
後期末に再度前期の試験を受験できる仕組みは作れないか？ との意見が出された。

（進級に関わる内容にて、教務課のとの相談が必要であるが、学年末を活用して対応できれば、学生のモチベーション維持にも繋がる。）